

## 第12回産学連携人材ニーズ交流会 開催概要報告

- I. 開催日時 : 令和4年3月16日(水) 13:00~17:00  
II. 配信会場 : アルカディア市ヶ谷(私学会館) オンライン開催 (Zoom 使用)  
III. 参加者 : 大学関係者 64 大学 96 名 企業関係者 16 社 33 名 計 129 名  
IV. 開催趣旨

日本は世界の中で成長力、競争力、デジタル化など多くの分野で地盤沈下を起こしており、危機的な状況にある。これを打開していくには、大学と社会が連携・接続し、大学の多様な知と社会の現場感覚や知見などを組み合わせ融合する中で、一体的にイノベーションを起こしていく仕組みとして、大学での知の創造に加え、社会や企業などを巻き込んだ「共創活動の拠点」を設け、新たな価値創造に立ち向かう日本としてのオープンイノベーションの仕組みが必要である。そこで、本年度は、データサイエンス・AIなどを活用して社会の変革に取り組む企業から大学教育に対する人材育成の要望・意見を聞き出すとともに、企業等社会の知的資源をクラウド上で大学教育と融合し、新しい価値の創造を目指す共創の場づくりの仕組みを考える機会にしたい。

### V. プログラム

#### 1. 開会挨拶

向殿 政男 氏 (公益社団法人 私立大学情報教育協会会長)

#### 2. 情報提供

##### (1) DX人材採用枠によるクリエイティブ系人材採用の取組みと大学教育への期待

小幡 寛斉 氏 パナソニック株式会社人事部採用課課長

DX人材採用枠として、クリエイティブ系の枠を設置し、データ分析やデザインに通じた学生採用の取組みとして、デジタルマーケティング、ビジネスコンサルティング、デザインエンジニアなどの職種を設けて、未来を描きビジネス・テクノロジーと融合した越境人材の採用を進めており、ポートフォリオなどで採用職種を選別している。

大学教育への期待として、自社採用のための青田買い、就活早期化の悪循環とならないためにも、人材育成策の共同開発に期待している。また、デジタル時代の学びが社員にも必要で、社会人にも受講できるリカレント教育のプログラム開発に期待している。

##### (2) 「Lumada (ルマーダ)」で企業のDXを支援する取組みと大学教育への期待

富田 幸宏 氏 株式会社日立製作所 ITデジタル統括本部DX戦略本部  
DX戦略推進部部長

現実世界から得たデータをサイバー空間のAIなどによって可視化・分析し、課題の解決策を現実世界にフィードバックすることで、価値創出の連鎖を加速し、継続的なイノベーションの実現を目指している。知識やアイデア、ソリューションや技術、パートナーを「つなぐ場」としてのルマーダを通じて、社会価値、環境価値、経済価値及び生活の質向上に向けた新たな価値を創出し続ける場を目指している。

大学教育への期待は、社会の課題と企業の経営の課題をデジタルで解決していく力として、未来のビジョンを描き、その実現に志を持ち、人の心に働きかけて巻き込むリーダーシップとあきらめずにやり抜くことで成果を生む力を期待している。

##### (3) 「Vitality」による生命保険DXの取組みと大学教育への期待

藤澤 陽介 氏 住友生命保険相互会社 情報システム部 AI オフィサー

日々の健康増進への取組み(健康診断など健康状態の把握、ウェアラブル端末やスマホの歩数・心拍数による健康状態の改善、)をポイント化し、それをジム・スポーツ用品、ホテルの割引などの特典を通じて健康増進のモチベーションを高め、保険料を変動させる生命保険DXの取組みとして、約100万人の日々のデータがVitalityシステムに蓄積され、行動データの活用、疾病予測モデルなどにより、健康被害のリスクそのものを減らすことを目指している。

大学教育への期待は、「共創活動の拠点」としての大学、データ分析に関する「人材育成の拠点」としての大学に期待している。本交流会の開催趣旨には共感できる部分が多い。

#### 3. 全体討議

##### (1) 新しい価値の創造を目指す大学と企業・社会による共創活動の仕組みの提案

大原 茂之 氏 私立大学情報教育協会情報専門教育分科会主査

① 新しい価値の創造を目指すPBL授業の普及・推進方策の仕組みとして、昨年度に提案した「大社接続PBLマッチングサイト」を再構築し、メタバースを活用するなどクラウド上に、SDGs(持続可能な開発目標)の解決を目指した知の創造を展開する共創活動の拠点として、大学生、企業、民間の団体組織、地域社会等のイノベーションに意欲のある関係者が集い、分野を横断したフォーラム型のPBLサイト(「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」)の構想が提案された。

② 「フォーラムコモンズ」のマッチングサイトは、17のSDGsの目標ごとに「大学主体のチーム」と「企業・社

会主体のチーム」を設け、テーマ別にマッチングさせる。チームの参加者は、SDGsの解決に意欲のある学生(自大学や他大学のゼミナール・特定研究のプロジェクト、学生個人)、関係教員を想定している。マッチングサイトには、非同期で異質の分野を組合せ新たな価値を創造する姿勢の明確化や検討計画及び検討方法などのアジェンダを掲載した上で、学生と企業・社会等の関係者と意思疎通を立体化するため、メタバースを活用して仮想空間でアバターを用いてコミュニケーションを深める。

- ③ マッチング後の仕組みは、それぞれのチームが主体となり、クラウド上にメタバースなどのプラットフォームを構築し、マッチング先と共創活動の運営方法などを合意形成した上で共創活動を展開し、その結果をフォーラムコモンズに掲載・公表する。

マッチングサイトの運営は、理想的には文部科学省の事業として、国立大学で進めようとしている「イノベーションコモンズ(共創拠点)」の国公私立の大学版「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」として、文部科学省に可能性を打診する。

- ④ 当面は、「フォーラムコモンズ」のニーズについて理解の共有化を図り、モデルの実現可能性について意見交流を行い、パイロット的に一部の大学または企業関係機関に呼びかけて本協会が実験として試行し、有効性を検証する必要がある。その際、データの取り扱い、成果の取り扱いについて、大学と企業関係者間で合意形成や秘密保持契約の締結を検討しておく必要がある。

## (2) 「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」のニーズ、課題を考える

座長：向殿会長、大原情報専門教育分科会主査、井端事務局長

### 【昨年度交流会の振り返り】

全体討議に入るに先立ち、共創活動の仕組みの提案について質疑がないことを確認の後、向殿座長から、次のように昨年度交流会での議論の振り返りが行われた。

一つは、大学と社会が接続する「大社接続PBLマッチングサイト」構想を提案したところ、反対の意見はなく、大学も企業も変わらないといけないことが確認された。

二つは、企業においても自分で創りだせる人材は少ない。失敗がゆるぎされない企業風土と失敗で出世が止まる恐れがある。教育では、失敗を経験させる学びが無いことが最大の問題であることを確認した。

三つは、仮想空間と現実空間を活用して新しい価値創造の学びの場作りの構想について、文部科学省からマッチングさせる興味・関心の部分のアジェンダ設定をどうするか、マネジメントする主体者やプラットフォームをどうするか、費用をどうするかが課題ではないかとの指摘があった。

引き続き、向殿座長から、見直したモデル構想の特徴について、整理した後、国立大学のイノベーションコモンズの計画と本協会が提案のSDGsサイバーフォーラムコモンズとの違い、メリットについて、事務局に説明を求め、井端事務局から次のような説明が行われた。

### 【国立大学のイノベーションコモンズとの違い】

国立大学では、令和3年度から7年度、5ヶ年計画で国立大学の施設設備を社会の様々な人々との連携により、国立大学のキャンパスをオープンイノベーションの拠点とするため、共同利用できるオープンイノベーションラボの整備などによる「産業界との共創」、学生同士のアクティブ・ラーニング、ICTによるコミュニケーション、国際寮における国際交流などによる「教育研究機能の強化」、地元企業との交流会、地方創生の連携拠点などによる「地方公共団体との共創」の観点から、ソフトとハードが一体となって取り込まれる共創の拠点作りが進められている。

これに対して、本協会が目指す構想は、共創の概念は国立大学と類似しているが、共創を始める仕組みづくりとして、共創に参加する学生などの関係者を時間・場所の制約を受けずに、仮想現実の世界を活用してマッチングする仕組みを導入する。例えば、外国大学の学生、大学教員、企業、民間の研究団体組織、地方自治体、社会の有識者などを対象に広く呼びかけ、多様な人々などを交えて、最適な学びの環境の中で、多面的にSDGsの解決策を探求する場作りを構想している点が異なる。

大学側のメリットとしては、例えば、分野の異なる他大学のチームや実践的な現場体験・情報などを有する企業・社会からの知見の導入により、世界に通用する解決能力の訓練ができると考えている。企業・社会側のメリットとしては、常識や既成概念に囚われない気づき、大学教員が持つ最先端の知識などを導入し、事業内容や事業価値を振り返り、新しい価値の創造につなげることができると考えている。また、学生側には、成果を学修ポートフォリオに掲載し、オープンバッジを認定するなどして、学びのエビデンスとして就職活動に活用できることなどが考えられる。

### 【SDGsサイバーフォーラムコモンズ構想の確認】

新しい価値の創造を目指す大学と企業・社会による共創活動の仕組みの提案としての「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」について、以下の点について参加者に意見及び賛同を求めた。

- ① マッチングサイトの運営は、文部科学省が国立大学の施設を連携して進めようとしている「イノベーションコモンズ(共創拠点)」の国公私立大学のDX版として、文部科学省に可能性を打診したいと考えていることについては、4割程度の賛同があった。

- ② 文科省の打診が得られなくても私立大学のSDGsイノベーションDXとして構想の実現化を進める必要があることについては、4割程度の賛同があった。

- ③ マッチングの対象となる大学主体のチームは、SDGsの解決に「意欲のある」大学生・企業・民間の団体及び研究組織・社会の有識者を対象としている。主体的に取り組む、真剣に取り組む学生でないと、企業等の協力が得られないのではないかと考えていることについては、5割程度の賛同があった。
- ④ 学修者の可能性を最大限に伸ばす PBL の学修環境作りとして、身体に障害のある学生、外国等遠隔地の学生も含めて SDGs の解決に意欲を持つ人達であれば、三次元の仮想空間でアバターとして参加し、学生も企業・社会人もフラットなコミュニケーションの中で、真理の探究を訓練することが可能になるのではないかと考えていることについては、4割程度の賛同があった。
- その中で、アバター(分身)が持つ人格をどのようにコントロールできるかという問題もあるとの意見があり、学生にメタバースを活用する場合には、委員会の研究レベルで、メリット、デメリットを検証しながら、新しい仮想技術の活用に挑戦していくことが座長から説明された。
- ⑤ 行動計画に向けた課題として、取組みの重要性や効果・課題などについて理解の共有を図っていくことが必要となる。本協会がパイロットプランを策定し、一部の大学、企業関係機関に呼びかけて、実験として試行する必要があると考えていることについては、4割程度の賛同があった。
- ⑥ コロナ禍で対面授業の実施だけでは、学生に最適な学修環境を提供できていないのではないかと考えていることについては、4割程度の賛同があった。

#### 【座長からの総括】

- ① 学生が十分に主体性を持たないという理由から教育改善しないのではなく、学生に多様な学びの場で考えさせたり、発表させたりして、つまづきや失敗を体験させる訓練が必要ではないかと思う。メンタルの面も配慮して、教員がファシリテートしていくことが必要なのではないか考える。
- ② 学生、企業、社会などの英知を結集して、学生に最良の学びを提供していくことが喫緊の課題と考える。来年にはパイロットプランに向けて検討を深めていきたい。今回の構想について大学でも検討いただき、実現に向けて前に進んでいきたいと思う。



【情報提供者等を交えた全体討議の場面】